



ユースが広げる生物多様性の輪

2020年度活動レポート



生物多様性あいち学生プロジェクト

contents

2-3	目次
4-5	理念
6-7	ACTIVITY MAP
	活動紹介
8	・ 海の活動
9	・ 森の活動
10	・ まちの活動
11	・ 西三河・東三河
12	・ 尾張西部・新城設楽
13	・ 知多半島・東部丘陵
14	・ 渥美半島・尾張北部
15	・ 西三河南部
16-17	GAIA が今後目指す姿
18-19	メンバー対談
20-21	メンバー紹介
21	アンケート
22	ご協力頂いた皆様のコメント
23	編集後記



楽しみながら、 学びながら、生物多様性を 守る活動を広げています。

保全活動

情報発信



愛知県環境局自然環境課 課長

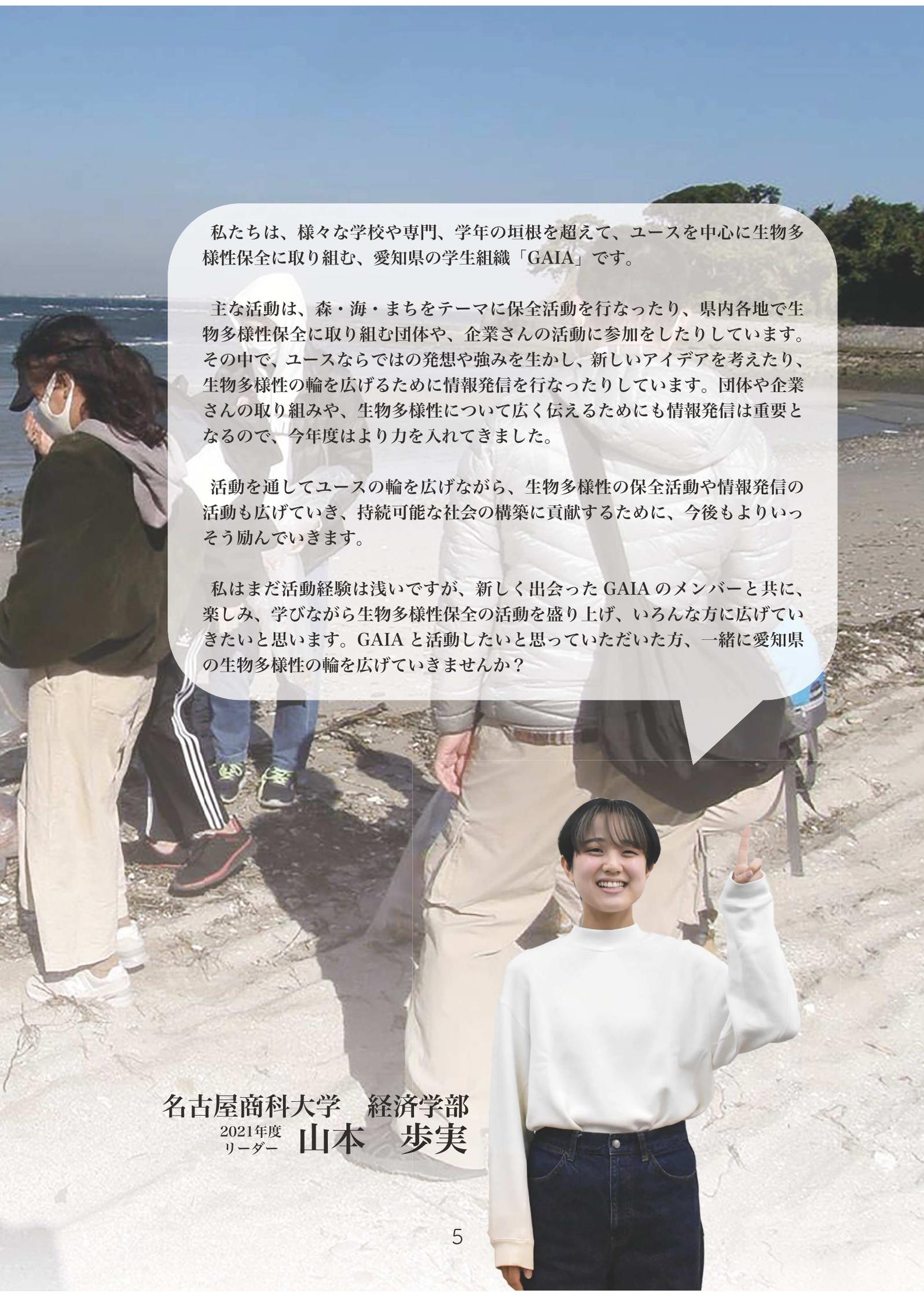
來住南 輝 様

社会は一人ひとりの人間から成り立っています。人づくりが上手くいけば社会は良くなり、そうでなければ、社会は悪くなってしまいます。ユースの皆さんは、2050年には社会の中軸を担っています。その時に、あなた達は、どのような思いで社会を導くのでしょうか。今、気候変動や生物多様性の損失が地球規模の問題となっています。それらは、とても大きな問題に感じられるかもしれませんが、人間が

引き起こしたものであり、一人ひとりの選択と行動の結果なのです。それが未来永劫、変えられないわけではありません。2030年に向けた国連の持続可能な開発目標（SDGs）は、まさに変革のための行動を起こそうというものです。世界は新しい行動を求めています。

ユースの時代は、社会を学び始め、自分に何ができるかを模索する時期です。持続可能な社会を求める活動は、既に多く始まっています。G A I Aの皆さんには、ぜひ、そうした取組を現場で見、聞き、やってみて、学び、そして、現場を元気づけてほしいと思います。

皆さんの参加と成長が、愛知発の持続可能な社会づくりにつながっていきます。皆さんが本気ならば、応援する大人は必ず出てきます。ぜひ、皆さんの学びのエネルギーを、G A I Aで思う存分、羽ばたかせてください。



私たちは、様々な学校や専門、学年の垣根を超えて、ユースを中心に生物多様性保全に取り組む、愛知県の学生組織「GAIA」です。

主な活動は、森・海・まちをテーマに保全活動を行ったり、県内各地で生物多様性保全に取り組む団体や、企業さんの活動に参加をしたりしています。その中で、ユースならではの発想や強みを生かし、新しいアイデアを考えたり、生物多様性の輪を広げるために情報発信を行ったりしています。団体や企業さんの取り組みや、生物多様性について広く伝えるためにも情報発信は重要となるので、今年度はより力を入れてきました。

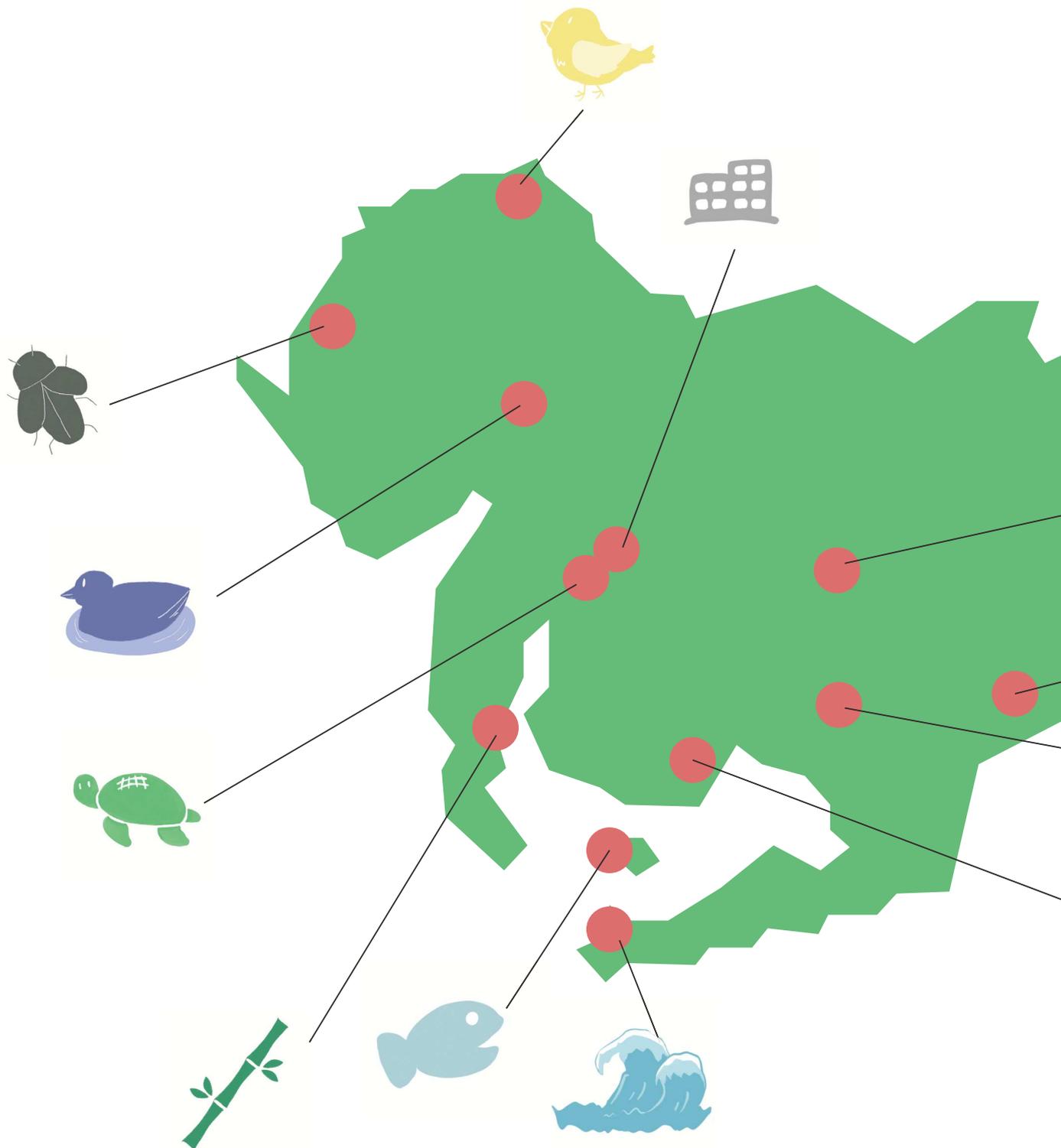
活動を通してユースの輪を広げながら、生物多様性の保全活動や情報発信の活動も広げていき、持続可能な社会の構築に貢献するために、今後もよりいっそう励んでいきます。

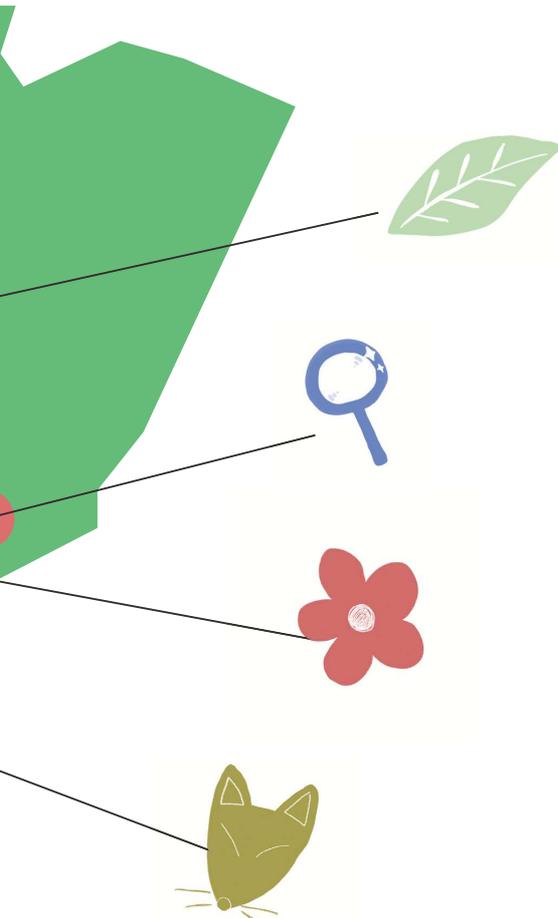
私はまだ活動経験は浅いですが、新しく出会ったGAIAのメンバーと共に、楽しみ、学びながら生物多様性保全の活動を盛り上げ、いろんな方に広げていきたいと思います。GAIAと活動したいと思っていただいた方、一緒に愛知県の生物多様性の輪を広げていきませんか？

名古屋商科大学 経済学部
2021年度 リーダー 山本 歩実

Activity Map

2020年度、GAIAは愛知県内で12箇所で開催しました。
森・海・まちの3つのテーマで生物多様性の活動に取り組みながら、愛知県内9地域の活動に参加しました。





海の活動

佐久島 - P.8
・佐久島の魅力再発見
・企画作りワークショップ



森の活動

岡崎市額田地区 - P.9
・植樹
・ワークショップ



まちの活動

愛知教育大学他 - P.10
・レッツ・エコアクション
・環境学習教材の体験



西三河

刈谷ふれ愛パーク - P.11
・外来生物駆除活動



東三河

東三河ふるさと公園 - P.11
・野草園・植生モニタリング調査体験
・外来植物駆除活動



尾張西部

稲沢市祖父江 - P.12
・無農薬実験田の稲刈り体験
・生物モニタリング活動



新城設楽

新城市黄柳野 - P.12
・『あいちの生物多様性モニタリングハンドブック』を活用した調査へ参加



知多半島

美浜町布土 - P.13
・竹林整備



東部丘陵

**名古屋市農業センター
& 荒池 - P.13**
・水鳥の見分け方に関する事前講義



渥美半島

田原市西の浜 - P.14
・海岸清掃
・塩作り



尾張北部

犬山里山学センター - P.14
・野鳥観察



西三河南部

愛知こどもの国 - P.15
・『生物多様性を学ぶ』
企画づくりワークショップ

GAIA の活動内容をご紹介します!

佐久島の課題・魅力再発見+企画づくりワークショップ

活動が必要な背景

豊かな自然から恵を受け、漁業や観光を主要産業とする佐久島では、生物多様性は産業を支える基盤です。一見当たり前のよう存在する生態系は、貴重な固有のものであり、生物多様性保全と地域活性化と結びつける取組が求められます。

活動内容

- ・8月29日：海岸清掃・マイクロプラスチック分析調査
- ・11月14日：海岸清掃・魅力を活かした企画づくり

海岸清掃、マイクロプラスチック分析調査、アマモ藻場再生フィールドの見学、島内サイクリング・魅力発見調査を行った後、佐久島の魅力を活かした企画づくりワークショップを行い、2つの企画（『佐久島生き物調査イベント』、『インスタ映えするゴミ箱づくり』）を作成・提案しました。

参加メンバーの感想

■「アートな島」だけじゃない 佐久島の魅力を活かした企画づくり

8月29日：アマモ藻場再生、無農薬の梅や芋焼酎の生産などに島全体で取り組んでいる雰囲気がとても素敵に思えました。食がからめば、もっと色んな人に興味をもってもらえるし、楽しいだろうなと思うとともに、地域の特産品と生物多様性を掛け合わせたようなアクティビティを企画したいと思いました。

11月14日：島内を回っているときにも様々な発見がありました。佐久島の魅力をいろんな人に知ってもらいたいと思いました。



サイクリングで現地視察



海岸ゴミ問題講義

海の活動

日時：2020年8月29日（土）、11月14日（土）
場所：西尾市 佐久島



マイクロプラスチック調査



佐久島の
魅力発見♪

主催団体の声

島を美しくつくる会

自然（アマモ藻場再生、里山保全）、風土（三河湾の黒真珠といわれるコーラルで塗られた黒い家並み景観の保全）、歴史、産業といった佐久島固有の資源を発掘・研磨し、島の活性化（経済的発展、交流人口の増大、定住人口の確保など）を推進することを目的に1996年に設立された団体です。



企画づくりワークショップ

天使の森プロジェクト・植樹とワークショップ

活動が必要な背景

日本の生物多様性の劣化の原因の1つが「森林、農地などの手入れ不足による自然の質の低下」と言われています。過疎化が進む農山村での林業再生を通じた持続可能な森づくりと地域活性化を一体化して進める必要があります、その活動自体が生物多様性保全につながります。

森の活動

日時：2020年11月3日（火）

場所：岡崎市額田地区（矢作川・乙川 水源の森）

活動内容

■植樹祭へ参加+林業再生に向けたワークショップ

岡崎市額田地区に広がる“天使の森”で、水源の森づくりに参加しました。子どもたちや企業がドングリから育てた地域在来の苗木を使って、地域の方々と一緒に植樹活動を行いながら、森林の管理についても学びました。植樹の後には古民家でワークショップを行い、林業再生と生物多様性保全について考えました。

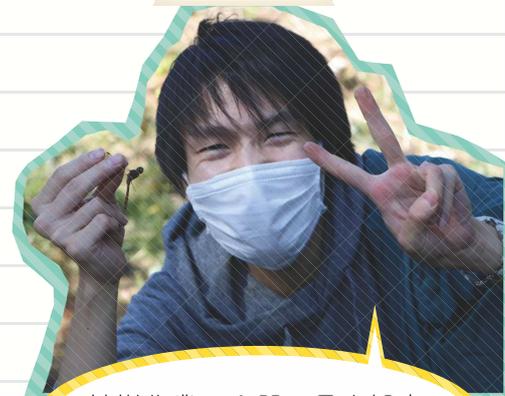


荒廃した人工木に関するレクチャー

参加メンバーの感想

■森の実態に衝撃!!

天使の森プロジェクトに参加して一番衝撃を受けたのは、間伐不足といわれる人工林が想像以上に真っ暗で下層植生も生えておらず、昆虫も全然いないような状態だったことです。こうした未管理の人工林が全国に放置されていることを想像すると、早急に持続可能な森林づくりの仕組みを確立させる必要があると実感しました。



植樹作業の合間に昆虫観察
アキアカネグット!



植樹作業

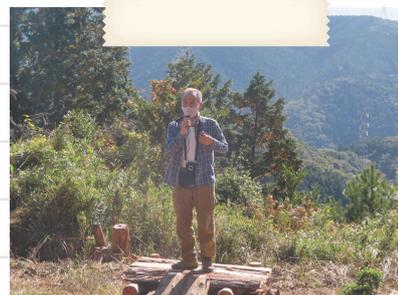


植樹作業の合間に昆虫観察

主催団体の声

特定非営利活動法人ア-スワ-カ-エナジ-

自然と人の在り方という原点から、森林の再生、里山の暮らし、地域循環型産業を考え、その実現に貢献していくことを目的とし、1990年に設立。モデル事業のひとつが矢作川・乙川の水源の森における天使の森プロジェクト：荒廃したスギ・ヒノキ人工林を在来種のドングリを主体とした豊かな広葉樹へと林相転換を図る事業です。



天使の森で挨拶される小原代表

生物多様性をどう広める？ ~SAGA 手づくり環境学習教材に学ぶ~

活動が必要な背景

2010年、生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）が愛知県名古屋市で開催されました。それから約10年、様々な取組が進められてきましたが、今なお愛知県内外において、「生物多様性はわかりにくい」と今なお言われ、その主流化は大きな課題となっています。

活動内容

■手づくり環境学習教材に学ぶ

11月29日：愛知教育大学SAGAの皆さんと一緒にレッツ・エコアクション会場にて、SAGAの皆さんが作った『生物多様性・8並べ』、『バイオミミクリー・神経衰弱』などの環境学習教材を一般参加者・児童に紹介しました。
2月19日：改めて環境学習教材を紹介頂いた後、教材利用者のひとりとして感想、改善すべきと思った点などについて情報交換をしました。

参加メンバーの感想

■ SAGAの皆さんと連携プロジェクト企画を!!

生物多様性の保全の重要性について、いかに分かり易く伝えるのか？は今後のGAIAの活動推進に係わる最も大きな課題であると痛感しました。SAGAの皆さんの教材のクオリティの高さには驚く一方、SAGAの皆さんとの連携プロジェクトを企画したいと思いました。



SAGAの皆さんの教材



まちの活動

日時場所

2020年11月28日(土)

一宮市 尾張一宮駅前ビル i-ビル

2021年2月19日(金)

愛知教育大学



生物多様性 神経衰弱「バイオミミクリー」



SAGAの皆さんと
意見交換をしました!

主催団体の声

愛知教育大学 SAGA(SDGs AUE Glocal Action : サ-ガ)

子ども（主に小・中学生）に向けて授業や教材を通し、SDGsを普及・啓発するための愛知教育大学学部生、大学院生による活動団体です。子供達と遊びながらSDGsについて学ぶことができる教材を開発してきました。様々なイベントに参加、SDGsを普及・啓発する活動を行ってきました。今後も積極的に活動を行っていきたく考えています。



SAGAの皆さんと記念撮影

都市のため池における生物多様性保全活動への参加

活動が必要な背景

日本の生物多様性の劣化の原因の1つは「外来生物の侵入による地域生態系のバランスの崩壊」です。在来のカメ類や水生動植物に悪影響を与えるミシシippアカミミガメは、その駆除対策が至急の課題です。

活動内容

■企業と連携した外来生物駆除活動

ため池にカメワナを設置し、外来種であるミシシippアカミミガメを捕獲。捕獲した個体は体長計測等行いました。その後、動物愛護法で決められた方法に準じて冷凍保存後に行政の方に引き渡されました。

参加メンバーの感想

■「外来種駆除」を再考

初めて駆除という言葉に実感がわきました。生物を守るためとはいえ、凍結後、焼却処分をするという手段について可哀想だと感じました。『原産地で生まれていたら冷凍されることもなかっただろう』にとも思いました。外来種とどのように向き合っていくかを考えながら外来種の駆除活動をしていきたいと思いました。

主催団体の声：西三河生態系ネットワーク協議会

この活動を主導するトヨタ車体(株)は、基本理念に“環境との調和”を掲げ、「地球にやさしい車づくり、人にやさしい車づくり」の考えのもと、「地域と共生、自然と調和する工場」を目指し、取組まれています。社会貢献活動の一環で、刈谷ふれ愛パークを設立、スポーツができる場所や農業が体験できる場所とともに、自然共生の場としてピオトープも創出されています。



西三河

日時：2020年9月13日(日)

場所：刈谷市 トヨタ車体 刈谷ふれ愛パーク



ワナを仕掛けてゲット捕獲!



捕獲したミシシippアカミミガメを計測

地域環境リーダーによる生物多様性保全活動への参加

活動が必要な背景

生物多様性の劣化の要因のうちの1つが「里地里山などの手入れ不足による自然の質の低下」です。特に、草地の減少は顕著で、草地に依存する動植物の生息地の保全は至急の課題です。

活動内容

■植生モニタリング調査体験及び外来植物駆除活動

植物の同定法などを学びながら、コドラート法による植生モニタリング調査を体験。その後、セイタカアザダチソウなどの外来植物の駆除活動に参加。三河山野草園で乱舞するアサギマダラに感激。

参加メンバーの感想

■科学的な調査体験……感激と尊敬

固定調査区に生育する植物種をすべてリストアップし、その生育状態を観察・記録するコドラート法を始めて体験しました。私には同じに見える固定調査区内の植物を、先生方が葉の形や生え方や高さなどを見てテキパキと同定される姿に「感激」し、「尊敬」しました。私も生物調査に関する基礎知識をつけようと思いました。



東三河

日時：2020年10月11日(日)

場所：豊川市東三河ふるさと公園



植物の分類・同定についてレクチャー



外来種駆除活動

主催団体の声：東三河地域環境リーダー

愛知県東三河総局が2015年に開催した「ほの国自然ソムリエ学校」の受講生等を中心に2018年から活動しています。東三河地域の自然環境の保全再生や魅力の発信を目標とし、東三河ふるさと公園の三河山野草園で「カヤネズミが棲む里山の茅場再現」をテーマに生物多様性保全活動(草刈りによる植生管理や外来種の駆除)を行っています。

里川の自然環境を守る活動への参加

活動が必要な背景

コンクリート三面張りの水路整備、田んぼへの農薬・化学肥料の投入に加え、住宅地の庭木や駐車場で除草剤の散布などにより、里川、田んぼの環境は様変わりしました。近年、ホタルをはじめ身近な生き物が激減しています。今、農業、暮らしのあり方が問われています。

活動内容

■無農薬実験田での生物モニタリング調査と稲刈り体験

環境保全型農業実践者から直接、現地での活動を学んだ上で、田んぼに生息するクモ類に注目した生物モニタリング調査体験。その後、地域のこどもたちと一緒に稲刈りも体験。

参加メンバーの感想

■現場体験の重要性を痛感

大学で生物多様性について勉強、環境に配慮した農業の重要性についても学んできましたが、実際の里川、田んぼで活動体験を通じて、その大変さや難しさを再認識しました。多くの子どもの姿をみて……。私たち世代はもちろん、さらには下の世代にも環境保全の大切さを伝えていかないといけないと思いました。

主催団体の声：NPO 法人祖父江のホタルを守る会

稲沢市の祖父江町地区に自然自生する、田んぼのホタル（ヘイケボタル）をシンボルとして、豊かな自然環境を次の世代に伝えることを目指しています。ホタル保護区の保存、地域企業や高校でのホタル飼育事業への支援、生物モニタリング調査、無農薬実験田プロジェクト等ホタルの保護活動などを行っています。

湿地の生物多様性モニタリング調査への参加

活動が必要な背景

黄柳野新谷は『生物多様性保全上重要な里地里山』（500箇所）にも選定された希少な動植物の宝庫です。黄柳野湿地は、湧水＋貧栄養という環境下で成立しており、人為影響を回避する環境保全対策が必要です。

活動内容

■指標種に着目したモニタリング調査へ参加

つげ自生地～黄柳野湿地のトレッキングコースを踏査しながら、『あいちの生物多様性モニタリングハンドブック』を活用した指標種に着目したモニタリング調査に参加。

参加メンバーの感想

■川、湿地、里山……守っていきたくて思いました

つげ自生地や黄柳野湿地まで行く間、きれいな川でしか住めないサワガニを発見。夏にはホタルが乱舞するとのこと。黄柳野湿地では、これまで図鑑でしかみたことのない希少な植物を多数発見しました。自然を守って次世代も、私と同じようにきれいな川、湿地、里山を見られるようにしていきたいと思いました。

主催団体の声：黄柳野自然同好会 新城設楽生態系ネットワーク協議会

黄柳野地域の自然のすばらしさを再認識を促すことを目的として活動を展開。黄柳野トレッキングコースを整備し、案内看板を設置するとともに、地域住民とともに登山・自然散策会を実施することもあります。また、黄柳野湿地の希少な植物の盗掘対策も行っています。2020年度より、登山・自然散策会を開催時、市民参加型の生物多様性モニタリング調査にも取り組んでいます。



尾張西部

日時：2020年10月25日（日）

場所：稲沢市祖父江



無農薬実験田でザリガニ釣り

楽しかったよ！



稲刈りを体験！



新城設楽

日時：2020年11月1日（日）

場所：新城市黄柳野五反田



生物多様性モニタリング調査



指標種を見つけたらスマホで記録！

竹林の保全活動へ参加＋モウソウチクの有効活用に関する意見交換

活動が必要な背景

近年、竹林の利用は減少するとともに、竹林整備の担い手の減少・高齢化などにより、放置されるようになっていきます。放置竹林の拡大は生物多様性の低下をもたらすことが知られています。

活動内容

■竹林整備を体験後、竹材活用の重要性について意見交換

『荒廃した竹林を伐採する』、『伐採した竹を運び出す』、『竹からポラス炭を作る』という一連の作業を体験。その後、モリビト・特製カレーを頂き、竹材活用の重要性などについて意見交換。

参加メンバーの感想

■竹林材の活用も視野に入れた保全活動を企画するぞ!!

- ・プラスチック製品が広く使われるようになって、竹材の需要は減っていることを再認識。GAIAとして竹材活用に関して新しい企画を考えていきたいと思いました。
- ・地域福祉の充実とつなげ地域コミュニティ全体で竹林問題に取り組んでいきたいと思いました。

主催団体の声：美浜町竹林整備事業化協議会

美浜町の里山保全のため竹林を整備しています。『伐採した竹からポラス炭を作る』→『売上金を今後の竹林整備に充てる』という事業を推し進め、活動の持続性を確保しているのが特徴。また、毎年、竹の子祭り（春季）や収穫祭（12月）を開催するなど、竹工作や食を楽しむ交流の場づくりもあわせて行っています。



知多半島

日時：2020年12月6日（日）

場所：美浜町 布土地区



竹林整備体験



昼食に竹で作ったお皿でカレーをいただきました!

美味しかったです!

あいち自然再生カレッジ 講義 『ため池の水鳥から環境の変化を考えよう』への参加

あいち自然再生カレッジとは?

東部丘陵生態系ネットワーク協議会の恒例行事。令和2年度は「身近な自然の多様ないきもの」というテーマで全5回の講座が開催されました。GAIAメンバーは、第5回（講師：名城大学橋本啓史准教授）の講義に参加させて頂きました。

活動内容

■ため池の水鳥野鳥観察を通じて身近な環境を考え直す

水鳥の見分け方に関する事前講義。移動後、水鳥の生態特性の紹介を交えたフィールド講義。最後に、フォローアップ講義……連続講義に参加。

参加メンバーの感想

■充実した講義を楽しんだ1日でした

- ・どんな餌を食べ、どんな採食行動をとるのかによって水鳥の形態も異なることなどフィールドと講義の双方で紹介頂き、興味深いなと思いました。水鳥がため池の中を泳いでいる姿は可愛いなと思いました。
- ・講義では、外来生物の影響によるため池の食物網の変化、水質の変化と水鳥の生息と密接な関係なども説明頂き、「自然再生カレッジ」……楽しいなと思いました。

主催団体の声：東部丘陵生態系ネットワーク協議会

愛知県東部丘陵に位置する23大学が中心となり「住民、企業、自治体と協力しながら、自然をつないでいくこと」、そして「身近にふるさとの生きものとふれあうことができ、ふるさとの原風景が残された、心豊かに暮らせるまちをつくること」を目的として、平成23年に設立された団体です。



東部丘陵

日時：2020年12月6日（日）

場所：名古屋市 名古屋市農業センター&荒池



名城大学 橋本先生の講演



荒池にてバードウォッチング

海の自然環境の保全活動への参加

活動が必要な背景

海岸ゴミは、私たちのライフスタイルの縮図です。ウミガメ、海鳥などが誤って、そのゴミを食べたりして死亡する事例が多数報告されています。海岸ゴミの削減は美しい海の再生、生物多様性保全に直接に貢献することになります。

活動内容

■海岸清掃と海の恵みを塩づくりと海鮮 BBQ で体験!!

参加者 18 人・1 時間の海岸清掃で驚きの 90kg (1 人 5kg) 海岸ゴミを回収。海岸ゴミ問題・最前線を体感。その後、本場・塩づくり体験、三河湾の海の幸満載の海鮮 BBQ を通じて海の恵みを体感。

参加メンバーの感想

■科学的な調査体験・・・感激と尊敬

- ・海岸ゴミに刈谷や岐阜など離れた地域をはじめ、ハングル文字で書かれた空瓶も…。近海でなく広く国内外のゴミも含まれていたことには驚きました。
- ・西の浜海岸で約 1 時間の清掃活動の後、塩づくり体験+海鮮 BBQ で海の恵みを体感する楽しさ 7 割、学び 3 割、とても充実した環境学習プログラムの見本を体験できました。

主催団体の声：環境ボランティアサークル 亀の子隊

「西の浜は ゴミ箱じゃない!」と声を上げた亀山小学校の児童が 1998 年、総合的学習の中で『自分たちができることを考えよう!!』と学習を始めたことをきっかけとして設立した団体。田原市西の浜の自然に目を向け、ゴミのない美しい西の浜の再生のための清掃活動を通して、自分達の生活する地域と自然を愛する心を持つ人材育成を目指しています。



日時：2020 年 12 月 13 日 (日)

場所：田原市 西の浜海岸



海岸清掃の成果



塩づくり体験をしました!

里山・生物多様性モニタリング調査への参加

活動が必要な背景

里山は持続的に利用されることで守られ、生物多様性保全の場であり、日本人の感性を育む場でもありました。近年、放置・荒廃した里山が散見されます。里山荒廃の実態周知が至急の課題です。

活動内容

■里山の野鳥観察を通じたモニタリング調査へ参加

双眼鏡の使い方などの基礎を教えた後、ため池・里山での野鳥観察。ハイタカ、カイツブリなど 8 種を確認。その後、野鳥観察の最重要事項『やさしいきもち』に関する講義・意見交換。

参加メンバーの感想

■里山のめぐみ・・・守り・伝えることの重要性を再認識!!

自然の中で野鳥を双眼鏡で観察することは初めてでしたが、野鳥はよく見るととても可愛く思いました。そんな姿を・・・みんなで守っていきなさいなと思いました。コロナ禍が収束したら、GAIA の活動の一環として、地域の活性化、里山環境・野鳥への関心を高めるようなイベントを企画・開催したいと思いました。

主催団体の声：尾張北部生態系ネットワーク協議会

実物・現場・体験をモットーに、里山に対する調査研究を踏まえ、里山の大切さについて世代を超えて発信すること、子ども達を自然環境に理解のある豊かな人材として育てること、そして、市民、企業、行政と提携・協働、里山都市の魅力づくりを行うとともに、地域連帯のもと活力ある農村づくりを推進することを目指しています。



日時：2021 年 1 月 23 日 (土)

場所：犬山市 犬山里山学センター



野鳥観察



情報発信班大活躍!

自然を活かした企画づくり

活動が必要な背景

生物多様性を守り、広めていくためには、保全活動に加え、次代を担う子ども達に生物多様性の大切さを伝えたり、地域活性化につながる取組を考えたりする必要があります。

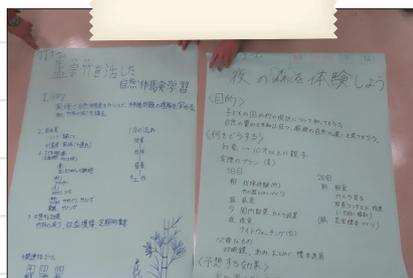
広大な敷地と豊かな自然を有する愛知こどもの国で、生物多様性をテーマに、子どもが楽しめたり、地域の活性化につながる活動を考え、トライしていくことは、まさにSDGsにつながる取組です。



西三河南部

日時：2021年1月24日(日)

場所：西尾市 愛知こどもの国



アイデアをまとめた模造紙

活動内容

■愛知こどもの国の自然を活かした企画づくり

午前中園内踏査。カワセミを発見するなど魅力体感する一方で拡大する竹林、ナラ枯れなどの課題についても学びました。昼食後、愛知こどもの国の自然を活かした企画づくり。最後に楽しく意見交換。

参加メンバーの感想

■「コラボ企画づくり」是非!!

現在、愛知こどもの国では、スタッフの皆さんで環境学習・体験イベント企画・活動を行っているとのことでしたが、私たちも加わり、より一層楽しんでもらえる、そして、多くの人に自然に興味を持ってもらえるイベント企画づくりをしたいと思っています。是非、コラボ企画を一緒に進めさせて頂きたいと思っています。



企画づくりワークショップ



自然がいっぱい!



愛知こどもの国の方とも意見交換



動物の痕跡発見!!

主催団体の声

特定非営利活動法人フロンティア西尾 (愛知こどもの国指定管理者)

自然のなかでのあそびを通して児童の健康増進と豊かな情操を養うことを目的として、1974年に開園された児童総合遊園施設「愛知こどもの国」で「自然・環境」「多世代交流」「地域協働」を重視した家族で誰もが参加できる企画イベント活動を行っています。西三河南部生態系ネットワーク協議会の加入団体です。



優しくお話しされる小野田所長

GAIA が今後目指す姿

■はじめに・・・

私たち GAIA は、2021 年 2 月 5 日にオンラインで開催された「生物多様性と SDGs 多世代フォーラム」に参加させていただきました。その中の「テーマ別ディスカッション」で、GAIA の取組発表を行う中で、GAIA の次期目標や SDGs 宣言についても発表しました。この目標と宣言は GAIA のメンバー全員で考え、全員の意見を統合させたので、なかなか長くなってしまいました。SDGs の誰一人残さないという目標らしくなったので、なかなかいい目標じゃないかなと思います。そして、発表を見て聴いてくださった方、ありがとうございました。GAIA をこれからもよろしくお願いします。



GAIA メンバーも多数参加し
GAIA の活動概要や
SDGs 宣言について発表しました!

🌿 生物多様性と SDGs 多世代フォーラム・ユース会議について

生物多様性と SDGs 多世代フォーラム・ユース会議とは COP10 から 10 年。SDGs 達成に向けた生物多様性の取組みを、世代を超えて議論し、次代を担うユースの視点で、経済・社会の基盤となる生物多様性を切り口に SDGs 推進の取組みについて考え、ユースから持続可能な社会の構築に向けたメッセージを発信します。



会議でできた ハッシュタグ

エシロジカル # 広がるユース守る生物多様性 # エコロジーマンシップ
生物多様性に関するつぶやきをしています!

■ GAIA の次期目標

GAIA は今後、GAIA の活動に関わっている様々な学校や専門、学年のユースの輪を広げていきながら、生物多様性の保全活動や、情報発信の活動も広げていき、持続可能な社会の構築に貢献していけるように、今後もよりいっそう活動に力を入れていきます。具体的には、既に開始している佐久島やこどもの国のように、生物多様性をより深めたり広報するための新しい企画をほかの場所でも考え、実際に行っていくなどをします。また、SNS やフリーペーパーでの情報発信活動、子どもを対象とした、遊びを用いた教育活動についても模索しながら行っていきます。

■ SDGs 宣言 SDGs Declaration of GAIA

GAIA は 2030 年の SDGs 達成に向け、私たち GAIA は活動を通して環境について学び、考えながら、生物多様性の保全に積極的に関わるとともに、身近な問題から行動することで、より多くの人々を巻き込み、生物多様性について広めていきます。

特に、私たち GAIA は、生物多様性の保全と最も関連性の大きい

「14：海の豊かさを守ろう」

「15：陸の豊かさを守ろう」

を SDGs の 17 目標の中で、主要な達成目標とするとともに、ユースが学びながら、多くの人々を巻き込み、活動を展開する、という私たちの活動の特徴を鑑み、

「4：質の高い教育をみんなに」

「17：パートナーシップで目標を達成しよう」

をあわせて主要な達成目標とします。

今年、様々な団体様や企業様と関わることができました。来年度以降は、その繋がりを大切にしつつ、また、少しでも助力できるように様々な努力をしながら今後も活動していきますので、応援よろしくをお願いします。



ユース会議に参加したメンバーから今後の意気込みを一言



瑞陵高校 金子真菜さん

私たちを取り巻く環境について意見を出し合って共有したり、保全活動を行うことは刺激的で貴重な経験になりました。豊かな社会実現のためこれからも学びを深め、私たちにできることを実践し発信していきます！

ユース会議に高校生の金子さんが参加しました！
GAIA メンバー唯一の高校生です！
GAIA は幅広い年代のメンバーが活躍しています！



新旧運営メンバーによる座談会 私たちが思う、GAIA のこれから



2020 年度リーダー
片田美穂

2021.2.26 ウィルあいち

2021 年度リーダー
山本歩実

情報発信班リーダー
村川直也

2021 年度副リーダー
松浦大起

本年度の反省から

山本 (以下、**山**) 今回の座談会では次期目標を語っていききたいと思います。

一同 (以下、**同**) おお！！

村川 (以下、**村**) なるほど、山本さんは次期代表として、野望を語っていきこうということですね。

片田 (以下、**片**) GAIA がこれから、どう活動していくのかってことですね。

村 じゃあ、山本さんはどんな感じで、活動していきたいんですか？

山 えっと、私は昨年初めて GAIA に参加させてもらったんですけど、次で GAIA は 3 年目になりますよね。佐久島とか、愛知こどもの国とかで、GAIA から企画を考えたりしていきたいですね。そういう企画を、実際に活動につなげていければな、って思っていて。私が考えているのは、子ども達に環境学習をしてもらおうと思ってます。なので、こどもの国さんは、自然があって生きものもたくさんいるから、そこに関連した絵本を作ったり、子どもに自然の楽しさを教えてあげたりしたいな、って思います。

村 うーん。なるほど。

山 松浦君は、どうってますか？

松 山本さんと似たような考えですけど、今の活動は受け身な状態ですよ。次年度以降は、「自分たちがやるんだ」という形になっていけばいいなって思います。

具体的にいえば、愛知こどもの国さんで、企画作りをして、GAIA が主催して実践するというように活動の幅を広げて行ければいいよね。

片 やりたいよね。

村 私は、新しい企画をどんどんやっていく事も大切だけれども、GAIA はあと 2 年くらいで愛知県や事務局から自立していかなければならない。自分たちで体制を固めなければならぬ。来年度は、活動相手とのやりとりをユースでしていかなければならないと思う。

あと、1 から新しい企画を作り出すのも大切だけど、少しハードルが高いよね。だから、愛知教育大学 SAGA さんの教材をつかってイベントに出展するなんてことは、今すぐにも頑張ればできると思うから、来年はイベントの出展もやっていきたいよね。片田さん、どう思いますか？

片 ほんとに、その通りだと思うよ。

松 村川くんの言ったとおり、既存の教材や活動をちょっと変えて、イベントに出展することは、できそうだから、来年度できそうだよ。

村 現代表片田さんはどう思います？

片 今年度は色々な団体に、様々な体験をさせていただいて、つながりを得られたから、みんなの言うとおりに、これからは団体に対して長期的に考えて活動していければいい。さらに、私たちが何をしたいかも大事だし、活動を共にしてくれる団体がどういったことを求めているかを大切に、来年度以降も活動していけたらいいと思う。GAIA のいいところは、ユースが活動に参加する敷居があまり高くないところだよ。メンバー紹介のページにあるアンケートで分かったけど、環境に関して活動した事がない人が多かったもんね。

来年度に向けた意気込み

村 新しい事をどんどんしていくことも大事だけど、既存の活動に参加することも大事にしていきたいよね。

山 そうですね。GAIAが現段階で、どんな活動をしているかっていうと、元々、環境保全に関する活動を行っている団体に参加させてもらって、活動基盤を作っていますよね。参加するときに、様々なことを学べると思う。これも、きっと大事な事ですよ。団体さんの想いをくみ取って活動するのが、大事だと思います。

村 今後、もしかしたら、保全活動をGAIAで企画することがあるよね。例えば、GAIAで竹林の整備をしますって事があるかもしれない。もしかしたら、元々活動している人たちの想いを踏みにじる活動になっているかもしれないじゃないですか。だからこそ、今、活動している人から想いを聞いたり、一緒に活動したりすることが大切だと思います。



GAIAの強み

村 企業の方が、GAIAと関わる事で、得られるメリットは何だと思いますか？

松 GAIAの強みの一つに、情報発信があると思うんですね。やっぱり、魅力的なものや守らなければならないものを発信したくても、発信できずにいる団体も多いと思う。より多世代に知ってもらうためには、GAIAの情報発信が有効だと思います。

村 情報発信って言うのは、SNSや今回作成するアニュアルレポートって言うのがあるよね。アニュアルレポートを作成して、団体に配布することで、別の団体が見る。たまたま見ることで活動を知ってもらうことも大事だと思う。SNSでは広がりにくい層にも広げることができるし。アニュアルレポートを見て、団体同士が繋がったら、GAIAの発信は成功したことになるよね。

片 団体同士の連携ができるって事だね。確かに。

村 今後、団体間の困りごとを共有することができるようになると思う。そこで、橋渡しの役ができればいいよね。

片 活動に参加している人がいるということ自体、アピールになるよ。大学の友達に伝えるとき、今の状態だとGAIAってどんな団体かを説明しにくい。レポートという形でまとめることには、新しい仲間を呼び込むためにもよいことだと思う。

松 GAIA自体、多くの人が参加してて、さっき片田さんが言っていたように、参加する敷居もそんなに高くない。そういう意味では、より広いつながりで広い関わりが取れてって言うところも、情報発信の一つなのかなって思います。活動団体ごとが抱えている課題を解決するためには、GAIAの存在が一助となるんじゃないかな？

片 松浦君、この前に友達を連れてきてくれたよね。

松 いやいや笑

片 そのとき、アニュアルレポートとかSNSが充実していれば、連れ込みやすいよね。

片 そう、なんか楽しそうって思ってもらえればいいよね。ただ、生物多様性について考えて、真面目に保全活動をしているというより、気軽に参加してもらえそうだね。

村 そろそろ、まとめよう。

山 まあ、私や次期副代表の二人と新しいものにちょっと挑戦してみたいというのはあったんですけど、やっぱり、その既存の活動に参加させていただいているというのが、今までしてきたことですよ。そこを、ただ参加するだけじゃなくて、もうちょっと深いところ、積極的に私たちからどんな想いで活動を続けてきているのかっていうのとかを、しっかりと聞いて、それをどんどん繋げていくために、情報発信とかもっと力を入れていきたいです。あとは、村川さんや片田さんがおっしゃったように、GAIAも自立をしていかないといけないので…まあ今年度はコロナの影響で、そういう体制が整えにくかったんですけど、私たちが精一杯活動をしていく中で、GAIAが自立できるように体制とかもしっかり、今後は整えて行けたらなって思いますね…

同 いいと思うよ。

同 (拍手)



メンバー MEMBERS

<p>★</p> <p>2020年度GAIAの 学生メンバーたちをご紹介します。</p> <p>★</p>	<p>2020年度リーダー 名古屋大 農学部 4年 片田 美穂</p> <p>2020年度、GAIAのリーダーとして携わらせて頂き、県内のユース、団体や企業の皆様と活動ができて大変充実した1年となりました。今後皆さまとの沢山のつながりと、ご協力頂いた感謝の気持ちを大切に、活動を皆で楽しみながらも、生物多様性保全に真摯に向き合っていきたいと思います！</p> 	<p>2020年度副リーダー・交流班代表 人間環境大 人間環境学部 3年中尾 壮良</p> <p>私はGAIAの創設から携わらせて頂いており、また2021年度も副リーダーという形で関わらせて頂く事になりました。これまで様々な壁を乗り越えて来たGAIAを、これからも微力ながら支えて行けたらと思います。</p> 
<p>活動班代表 名古屋大 農学部 4年 村松 誉斗</p> <p>GAIAの活動では、実際に生物多様性保全に取り組んでいる方たちのリアルな意見や体験談を聞くことができました。また、フィールドワークを通じて、自分の肌で直接自然に触れ、どうすればよりよい環境をつくっていけるのか、仲間と共に考える貴重な時間を過ごすことができました。</p> 	<p>交流班代表 社会人 (中部大卒) 武馬 弘季</p> <p>大学生では環境団体に所属していません。社会人になっても継続していきたいと思い、活動に取り組んでいます。今後、SDGsについて会社やメディアに取り上げられていくと思います。自身の知識の習得や言葉の普及のために今後もメンバーと協力し、頑張っていきたいです。</p> 	<p>情報発信班代表 愛知教育大学 教育学部 3年 村川 直也</p> <p>10年後にGAIAを振り返ったとき、2020年がGAIAの原点だと言われるよう、団体のあるべき姿や性格を模索し続けてきた。これからもたくさんの壁にぶつかるのかもしれない。しかし、仲間たちと全力で立ち向かえる団体でありたい。それが我々の姿だと思うから。</p> 

鶴飼 明歩、羽賀 悠佑、中村 亮太、樋口 颯汰、神谷 みか、鈴木 貴大、津田 雅貴、酒井 瀬奈、大平 修也、加藤 椿華、近藤 真世、山内 想太、牧野 翔、野々部 華帆、金子 真菜、堀田 遥、東奈七美、橋本 晴絵、夏目 涼瑚、吉田 圭佑、黒田 桃花、相川 咲、日比 貴登、松下 優、橋本 奈々子、

アンケート QUESTIONNAIRE

Q：GAIAに参加してみようと思った理由

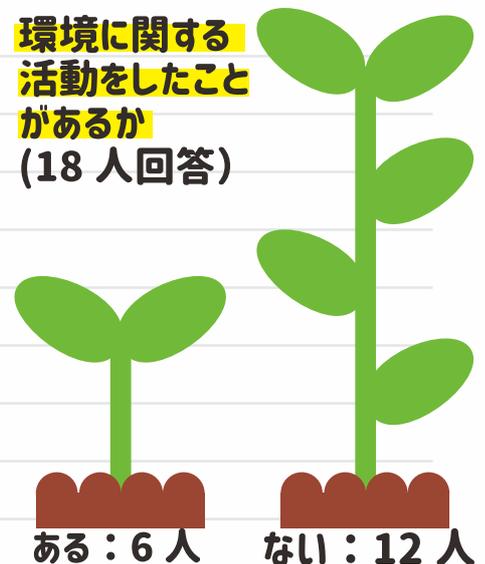
- 環境保全は自分の専攻に関連してくるから興味があったし、サークルにも所属してなかったので、何か新しいことをやりたいと思った。
- これまで学校内だけのクラスで留まっていたので、社会にも広く参加してみようと思ったため
- GAIAの活動が面白そうだと感じたため。
- 環境保全活動への興味、人との交流
- ボランティア活動に興味があったから
- もともと環境に興味があり、環境活動サークルのような団体に所属してみたかったから

Q：GAIAに参加してどんな変化があったのか

- twitterやinstagramで環境についてのニュースを自分から収集するようになった。日々の生活の中でも、出来るだけゴミを減らすようにするなど(野菜を腐らせないとか、実験室からでる廃棄物をへらすとか)常に環境のことに意識が向くようになった。
- 環境問題の現状を知り、レジ袋を極力使わないなどの具体的な行動につなげられるようになった。
- GAIAの活動が面白そうだと感じたため。
- 実際に環境活動に取り組む自治体やボランティア団体の話を聞くことができ、自分の知見・視野が広がった

今までに活動したことあるか、
否かとGAIAでの活動回数に相関はない！
初心者大歓迎！

環境に関する
活動をしたこと
があるか
(18人回答)



2021年度リーダー
名古屋商科大 経済学部
2年山本 歩実

私が生物多様性保全の活動に参加して、まず感じたことは"楽しい!"でした。そしてもっと"知りたい!"と思いました。ユースとして何が出来るか?をもっと考え、どんどん生物多様性の輪を広げていきたいです!



2021年度副リーダー
名城大 環境創造学科
2年中島 さくら

私は以前から生き物が好きでしたがあまり触れ合う機会がありませんでした。しかし、GAIAに所属して、同じように生き物が好きなメンバーと喋ったり、いろんな場所で自然を体感したことで、より生き物に魅力を感じるようになりました。ずっとケロケロとかエルの鳴く声が聞ける未来にしていきたいです。



2021年度副リーダー
名城大 農学部
1年松浦 大起

2021年度の副リーダーに就任した松浦です!活動を通じて様々な人とコミュニケーションをとることで、多くの知識や経験、価値観に触れることができ非常に楽しいです。多様な生物や自然を五感で触れることで魅力をより深く知り、学んだことをより多くの人に届けられるように尽力していきます!



名古屋短期大 保育科
2年鈴木 晴賀

今まで環境に関わる機会がなかった私ですが、この活動に参加することで環境の奥深さや環境問題を実際に体験し、環境に対してより身近に考えるようになりました。これからは様々な活動に参加をし、環境問題の実情を自分の目で確かめて、環境問題に対する学びを深めていきたいです。



人間環境大 人間環境学部
2年都築 紗耶

実は発言することさえ苦手な性格でした。しかし、GAIAの活動である楽しいイベントやワークショップを通して自分を変えることができました。メンバーと一緒に取り組むからこそ人見知りな自分も交友関係や発言量も徐々に増えて、多くの面でステップアップできたと感じました!



人間環境大 人間環境学部
1年村井 美乃里

初めは先輩に誘われて、何気ない気持ちでGAIAに参加しました。しかし、何度か活動に参加して、色々な方と交流していくうちに、新しい発見や学びがたくさんあり、GAIAのおかげでコロナ禍の学生生活も充実したものになりました。次年度以降も皆で楽しく頑張っていきたいと思います!



松波 香帆、秋元 翔生、石原 祐作、伊藤 響、佐藤 優希奈、竹内 真紀、片岡 千春、水井 さらら、佐野 聖、木戸 健太、相川 萌、松尾 朋晟、中山 なつみ、加藤 千尋、宮川 晃大、山下 かなえ、濱野 真裕、袋井 優希、内田 浩貴 ※順不同

GAIAロゴ発案者の声



大同大学 情報学部 情報デザイン学科
近藤 眞世



GAIAの活動場所である森、海、まちを象徴する動物たちを配置し、楽しく活動をしているというのを表現するためポップなフォントを使用しました。

ご支援・ご協力いただいた皆様 からのメッセージ

2020年度のGAIAの活動を受け入れてくれた団体様、協力して頂いた方々からのコメントです。

活動を通してたくさんの経験を得ることができました。貴重な体験をありがとうございます。



人間環境大学
人間環境学部 環境科学科 講師
谷地 俊二 様

「生物多様性保全」や「SDGs」は、多くの方が聞いたことがあると思います。ただ、この言葉に「の実践」と加えると、何ができる・してきた？と考えてしまいます。実践には、アイデアと行動力が必要です。大学での専攻が異なる学生が意見を出し合い一枚のシートに分野を横断した現場の課題解決案を提案し行動するという活動は、まさに実践です。実践にはリスクもありますが、アイデアの覆水が盆に返らなければ、別の盆が生まれるチャンスです。今後も皆さんの活動を応援しております。



大同大学情報学部
情報デザイン学科教授
上岡和弘 様

このコメントを書いている時はまだ完成していませんが、それでも敢えて書きます。

「完成おめでとう！」

GAIAの情報発信活動のサポートを依頼された時、まず心配したのは「締め切り」と「活動メンバーと制作メンバーとの共創」でした。結果は、この冊子が物語っています。そしてこの経験と成果が、みんなにとって素晴らしい資産として残るでしょう。次に重要なのは持続的な発展です。これからも応援します。



愛知県環境局
自然環境課 主査
滝口 徹 様

生物多様性保全に取り組むオール愛知のユース組織「GAIA（ガイア）」は、愛知県が進める「生物多様性 あいち学生プロジェクト」を通して、2020年2月に誕生しました。

このプロジェクトは、ユース世代を核とした連携による生物多様性保全の推進を目的に、2019年度から進められています。ユースを核に、経済・社会を支える基盤である生物多様性に取り組むことが、持続可能な社会の構築につながるという考え方が、その背景にあります。ユース世代とは、これから社会に出て、未来のリーダーとして活躍していく、可能性に満ち溢れた世代です。ユースの皆さんには、貴重で短いユース世代の間に、学び、成長しながら、社会の多様な主体がどう連携して持続可能な社会をつくって行くべきかについても考えてほしいと思っています。自然や生きものに触れながら成長した皆さんが、将来それぞれの分野でリーダーとなり、次の世代に取組を伝えていくことが、持続可能な社会の礎となります。

このように、ユースを核として、ともしれば難解に思われがちな生物多様性の保全活動が楽しみとともに広がっていく姿を、愛知県は2030年のSDGs達成に向けた理想の1つとして描いています。現在、GAIAでは、大学や専門学校、高校、社会人など、幅広い所属、専門のユース世代の皆さんが、楽しみながら、生物多様性保全やSDGsの活動に取り組んでいます。そうした未来に繋がるGAIAの活動を、愛知県は今後も応援していきたいと思っています。頑張ってください！



愛知教育大学
地域連携センター副センター長
理科教育講座 教授

大鹿 聖公 様

現在、豊かな自然環境が失われつつあり、生き物に触れるような自然体験の場が少なくなっています。そのような現状を踏まえ、GAIAのメンバーはいろいろな自然環境を体験し、生物多様性についての課題を実感してきたことと思います。今までの活動に加え、愛知教育大学のSAGAのメンバーと連携し、実体験や教材などのツールをうまく活用しながら、学校教育を中心に子どもたちへの普及・啓発をより一層進めていってほしいと思います。



トヨタ車体株式会社
PE 環境部 環境推進室

志水 剛 様

今回は、当社が生物多様性の保全を推進しているあらゆる活動の中から2017年から周辺のため池に生息する外来種「アカミミガメ」の駆除活動に「GAIA」の大学生が参加していただきました。生態系を回復するには「今まで通り（business as usual）」から脱却して「社会変革」をしなければなりません。そのため多くの人とつながり、保全活動を社会に普及していくことが重要で、その牽引役として皆様に大いに期待しております。「Think Globally, Act Locally」、共に愛知県の豊かな自然を守っていきましょう。



島を美しくつくる会 会長
鈴木喜代司 様

始めに、佐久島を活動場所に選んで頂きありがとうございます。佐久島は若い人たちに人気のスポットとして注目を集めています。そんな場所でありながら、開発は進んでおらず残された自然がたくさんあり、守るべきものがたくさんあります。島の中にいる人は気づかないことが多いものです。あなたたちの気づきを島民、訪れた若者たちと分かち合えるよう発信を続けていただきたいと思います。



村川直也

2020年度4月、大学はいきなり休業、もちろんサークルはなし。アルバイトも休業となり、オリンピックも延期となり、世界は大混乱に包まれていました。

GAIA2020は、この厳しい状況の中でも数々の活動成果を残すことができましたと思います。GAIAのメンバーをはじめ、愛知県の方、事務局の方には心から感謝申し上げます。

さて、アニュアルレポート作成を振り返ると、いつも一筋縄ではいきませんでした。はじめは、冊子のデザインのみを検討をすれば良いという考えでしたが、多くの方の助言により徐々に内容を深める活動ができました。作成過程では、GAIAが誰に対してどのように発信するか、どのような使命があるかを議論していくなかで、我々の人格が固まり成長を実感することができました。夜遅くまで一緒に話し合ってくれた仲間達は、我々の財産です。

最後になりましたが、今後のGAIAの繁栄を願い、私自身もGAIAを盛り上げたいと思います。

津田雅貴

実際に見て体験して、身体で実感することが一番大切な事だと気づきました。活動を通してうちに、体験者、関係者の笑顔や自然の奥深い所をカメラのシャッターが止まらないほど楽しい体験が多く、沢山の思い出を作ることができました。自分1人では何もできないようなことが誰かの力を借りる事でより大きなものを作り上げていけると実感しています。今後、続いていく活動に沢山の人の関わりが伝わるようにGAIAが大きく成長していくことを祈っています。



鈴木貴大

大同大学の鈴木貴大です。GAIAの存在は半年前までは知りませんでした。そして、このGAIAへの参加はアニュアルレポートを作成する意味合いが強かったです。しかし、実際に活動を体験したら、堅いイメージとは程遠く、環境問題についてとても楽しく学ぶ事ができました。GAIAのメンバー全員フランクであり楽しく活動できるため、是非もっとたくさんの学生に参加してもらいGAIAを盛り上げてほしいと思いました。

加藤榛華

GAIAの活動レポートをご覧頂き、ありがとうございます。この活動を通して、環境について学ぶことが多くありました。またユース同士の仲が良く、活動先での交流はとても意義のあるものとなりました。

そしてこの活動レポートは、初のユースによる制作だということで未だかつて無いほどの責任感に追われています。学生時代にとても貴重な体験ができました。是非ユースとしてGAIAに参加するきっかけの一冊になるといいと思います。



近藤眞世

GAIAのロゴと活動レポートのデザインのお手伝いをさせていただきました。この一冊はGAIAの思いが詰まったものです。メンバー皆さんの熱意がなければ成し遂げられなかったと思います。毎日夜遅くまで情報発信班メンバーや県の方と話し合ったり、原稿を何度も修正したり・・・初めての試みで不安ばかりでしたがとてもいい経験になりました。皆さんありがとうございます！GAIA盛り上がってほしいです！応援してます！

お問い合わせ

Mail

gaia2020.member01@gmail.com

Website

https://session-gaia6.webnode.jp/

SNS

Instagram

@gaia_aichi

Twitter

@gaia_aichi

GAIAへの参加申し込みはwebサイト『お問い合わせ』フォームからお願いします！



ユースが広げる生物多様性の輪

2021年3月発行

GAIA

Mail : gaia2020.member01@gmail.com

2020年度事務局 グリーンフロント研究所株式会社

ご支援頂いた機関

愛知県環境局環境政策部 自然環境課 国際連携・生態系グループ

Tel : 052-954-6229